

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第264回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

奥行き感のある建物には高級感がある。先日、千葉県の柏市のアパート（写真）を見たときにそれを強く感じた。奥行き感がある理由は、妻側住戸の外壁の小さな窓に庇（ひさし）をつけていることである。

減少する庇を考える

庇が奥行き感を出す理由は、まず、庇の影だ。庇が壁面に影を落として見え方に変化をもたらす。建物を見た日は晴天ではなかったが、庇がない普通の壁面と庇がある部分とは明らかに見え方が違う。次に、庇底

だ。理由は様々と考えるが、第1の理由は工事費の増加である。庇をつけると、庇の材料代、工事の手間が増えるほか、防水に配慮する必要がある、工期が延びるなど、工事費が高くなる要素が重なる。最近では小さな窓を並べる家が多く、その窓一つひとつに庇をつける。第2の理由として、劣化が早いことが指摘できる。庇の機能について見方を変えると、庇が雨や風や直射日光にさらされることで建物を守る側面があり、それだけ劣化が早

コストアップも美観は普遍

3の理由に配慮しているからだろう。ちょっとした庇に過ぎない

が、通りかかる人にも住む人にも配慮が伺えて、好感が持てる。

【教員のコメント】

小庇は霧除けともいわれ、少女の悪天候では開口部の機能を失わせない役割と同時に、伝統的建築物の美観を構成する重要な要素であった。機密性と断熱性に優れるサッシの普及に伴って廃れる傾向にあるが、美観機能は普遍的である。



朽方 勇祐
不動産学部2年

庇のもつ役割を調べると、大きく分けて2つあることが分かった。1つ目は、日射量の調節である。庇は太陽高度が高い夏は窓に大きな日影をつくり、断熱性に難点があるガラスを透過する熱量を減少させる。2つ目は、雨水の浸入を防ぐ。窓には

面の陰だ。この部分は太陽が当たらないために暗く、太陽が当たって光って見える壁面とコントラストが生まれる。写真の建物は庇が金属板で、金属の光沢と陰が不思議な見え方を生み、奥行き感を一層強くしている。

このように庇には機能的、美観的な効果があるにもかかわらず、実際に庇をつける建物が少ないのはなぜ



金属の光沢と陰が奥行き感を際立たせる